

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791000037	
法人名	社会法人 湖星会	
事業所名	グループホーム オハナハウス	
所在地	福島県二本松市高田1番地1	
自己評価作成日	令和元年11月5日	評価結果市町村受理日

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和元12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様が住み慣れた地域で安心して生活ができるようにお客様の思いを大切に支援しています。お客様を知ることが大切にし、事業目標を設定を明確にすることで職員が一丸となりサービスの向上に努めています。地域との交流では定期的な介護教室、地域の行事参加、毎月の外出支援、オハナカフェの実施など企画実施しております。地域の方がいつでもきて頂ける施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同じ建物の中に小規模多機能、デイサービス、グループホームとが運営されていて、利用者の緊急時などに職員同士の緊密な連携が取れてサービス向上に活かされている。広報などで認知症の「オハナカフェ」の開催を呼びかけ、地域密着型サービスの役割を理解した運営で利用者、家族に好評を頂いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果 [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに法人基本方針を基に事業目標を作成し毎月実施状況の確認を行っている。事業所の目標を個人目標に落とし込み実践に繋げている。	職員同士で理念を共有し確認しあいながら、日々のサービスを振り返り実施状況を記録している。半月に1回職員と管理者の面接を設け、理念に基づき個人目標の確認をして具体的なケアの統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所の理解を深めて頂くために広報誌やイベントのチラシを配布している。地域の清掃活動に参加、春のお祭りに参加するなど地域の方との交流が図れるように努めている。また、地域のイベント、お祭り、買い物等を通じて地域との関わりを実施している。	利用者の住んでいた地域の行事を見学したり、以前通った食堂に食事に出かけたり利用者や地域との交流している。隣の保育園とは利用者も職員も日常的に挨拶をしたり、七夕やハロウィンなどには園児の訪問があり交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回介護教室を開催しご家族様、地域の方むけの勉強会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の利用状況や予定、事故報告等を報告しご意見、アドバイスを頂いている。	帰宅願望のある利用者が建物の外に出てしまい、家族から玄関の施錠依頼の意見があったが、利用者の行動に配慮しながら職員が見守りに努める事で拘束をしないケアに納得頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎月地域包括センター職員の方に参加頂き、事業運営や事故、カフェ開催等についてご協力頂きサービス向上に努めている。	市の担当者とは事業所の運営や行事に意見を頂きながら協力関係を築いている。最近耳にする成年後見制度について、今後対応する可能性もあるとして勉強会を行う予定がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回身体拘束の勉強会を実施している。事業所会議の中で身体拘束についての話し合いを行っている。また、月1回併設する事業所と合同で委員会を開催し施設全体で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は行わず施設全体で見守る取り組みを実施している。	職員は利用者との会話に方言も入るが和気あいあいとなるように心掛けている。その都度の状況を伝えて「何々の途中だから少し待って下さい」といった表現で利用者理解して頂く事に努めるなど拘束にならないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の指針を定めている。事業所会議の中で話しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所において制度を利用されている方はいない。事業所会議の中で勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事業所見学や料金等の説明等を行いご本人、ご家族様の理解を得てから契約を行っている。また、高齢者の特徴や写真掲載の同意も得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回お客様アンケートを実施、意見や要望を伺う機会を設けている。アンケートの結果については事業所で改善策を作成し事業所会議で課題と対応策を話しあっている。また、結果と改善策について事業所玄関に掲示し、お客様へは郵送しフィードバックしている。また、年2回家族会を開催し意見を聞いている。	家族会の時に事業所の行事をスライドで見てもらい、安心感を得ている。家族とのアンケートから意見交流を図り、ソバ打ちの行事に家族が協力的に参加したりするなど、意見が運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行い職員の意見を聞く機会を設けている。月1回の事業所会議 全体の会議で職員の意見を聞き現場の問題点、管理者側からの連絡事項を話し合っている。	利用者の誕生会などを楽しんでもらえるように、担当職員の意見を聞いて話し合いをしながら検討している。「オハナカフェ」の行事が利用者にとって楽しい思い出になるよう職員に意見を求め、担当者は分担しながら実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回目目標管理による評価を行い定期的な面談を通して職員の個々の努力や実績を評価している。面接時異動意向調査を行い職員の個々の状態も応じて働くことができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて法人内外の研修に参加できるように努めている。また面接時受けてみたい研修を聞き研修に繋げている。事業所では毎月勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に参加させて頂き意見交換している。GH研修にも参加し交流が図れ機会を設けている。同グループ研修にも参加し他事業所の職員との交流も図っている。カフェ開催にあたりGH見学をし交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み後、実態調査を行いご本人、ご家族様の要望をお伺いしている。実態調査の内容について入居前に職員と話し合いを持ち情報共有を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談時や実態調査にご家族様の話を聞き、困っている事等のお話を聞き関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時に併設する事業所の、関連施設等も併せて説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯物たたみ等お客様が出来る所を見つけ関わりを持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設行事へご家族様の参加もお願いし、また生活用品や定期受診をお願い施設に来られる機会を設けて頂き関係性が途絶えない様に支援している。また面会時食事を一緒にとって頂く、家族様の要望があった場合は一緒に行動している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が面会に来られた時はゆっくりと過ごして頂ける場所に案内している。馴染みの理髪店や外出、地域のお祭りに参加、親戚訪問など関係が途切れない様に支援している。	同じ建物の小規模多機能から知り合いが訪問して来て交流を図っている。訪問者には利用者と居室やリビングで寛いでもらえるように、職員はお茶を出したり見守りをしている。馴染みの美容院に家族や職員が連れて行くなど、関係の継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の交流やコミュニケーションが図れるように職員間でお客様の一人おひとりの等を共有しサポートできるように配慮し共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入居されたお客様の面会を行っている。また、法人内の施設に入居されたお客様と交流を図っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様との日々の会話の中から気づきや思いを記録に残し職員全体で把握している。誕生日会ではご本人の希望をお聞き実施している。	職員は日々の気づきや利用者の思いを記録に残し共有している。大工をしていた利用者の提案で神棚を作るなどしている。利用者の誕生日会のメッセージを娘さんに書いてもらい、本人や家族の思いを職員が読み上げ紹介している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報だけではなく入居後もご本人様やご家族様からお話を伺い生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様お一人おひとりの生活のペース合わせてケアを実践している。日々の状態を報告し情報共有に努めている。日々の様子をケース記録に残し状態の変化について把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族に意向をお伺いし介護計画書を作成している。定期的にモニタリングを行い生活状況や身体状況を配慮し計画の見直しを行っている。	利用者の看取りの状況に変化があった時に、その都度介護計画の見直しを検討しながら、家族との話し合いをして医師とも相談を繰り返し対応している。身体状況は職員が共有して情報交換して、計画の反映に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケース記録を行いケアの状況の確認・情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の状況に応じて通院や必要な支援について可能な限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア受け入れや近隣保育園との交流、地域のイベント参加により地域との関わりが途切れない様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医で継続して受診している。状態に応じて職員が同行している。受診時は情報を記入し受診して頂いている。事業所としても協力病院を指定しており緊急時にも必要な医療が受けられる体制となっている。	利用者の受診は家族対応でしている。場合によって職員が対応する時もあるが、受診の時の状況や変化は本人、家族、事業所共に共有している。利用者に変化がある時は、かかりつけ医と緊密に連絡を取り合い適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調を把握し変化があった場合は他事業所の看護師と連携を図り対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に病院へ行き情報を聞く様に努めている。病院からも入院後電話等で情報を入れて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては法人として指針を定めている。重度化した場合、家族、担当医連携しながら取り組んでいる。	入居の時に本人、家族と事業所としてできる事を話し合っている。利用者に体温上昇や下痢などの変化がある時は、同じ建物内の小規模多機能の看護師の指示を受けて、家族やかかりつけ医と連絡を取り合いながら、薬や診察などの対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備し緊急時は併設する事業所と連携を図るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。避難訓練マニュアルの見直しを行う。水害マニュアル等を作成を検討している。法人内研修の課題から防災マニュアルの見直しと法人で統一したマニュアル作成の検討をしている。	水害による避難経験をして、水害による避難のマニュアルの必要性を感じ検討している。地元の消防団に事業所内を見回ってもらうなど緊密な関係を構築している。備蓄として水、レトルト食品など3日分の用意をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の勉強会や事故のミーティング時等、ケアの振り返りをしながら一人ひとり性格等に考慮した言葉かけを行えるように話し合いをしながらケアに努めている。	利用者を呼ぶ時は名前に「さん」をつけて呼ぶようになっている。居室の入口は普段閉まっていて、洗濯物などの入室の時はノックと声掛けで確認している。食事前などのトイレには、さりげない言葉で誘導して、周囲に配慮した声掛けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物を選ぶ、入浴の希望、お手伝いをして頂く時はご本人の意思に尊重する。日々のケアで選択できる声掛けを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床からご本人のペースで起床して頂くなどできる限りお客様のペースで生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で着たい洋服を選択して頂く、ご自分で好きな化粧品を買いに行く等その方に合わせた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の感想を聞いたり、その方にあわせた切り方実施しなるべく食べやすい好み等を把握している。また行事食等も季節にあわせた食事を提供している。食事の準備、盛り付け 配膳を職員と一緒にやって頂いている。また下膳も進んで行って頂いている。	近所の人や家族から野菜やくだもの差入れがあり、季節感ある食事を提供して利用者には喜ばれている。職員は、利用者が野菜の皮むきや盛り付けなどを手伝ったりして、進んで参加しやすいように声掛けをして、食事が楽しめる雰囲気作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録し観察を行っている。その方に状態に合わせた食事提供や好みの水分を提供している。モニタリングの中で食事形態等の見直しを実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア介助、見守りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様の表情やしぐさでトイレ誘導している。なるべくトイレでの排泄を促し誘導を実施している。失敗した時がさりげなく声かけするなど周りに配慮し声かけしている。	トイレでの排泄に努めて、利用者の動きに合わせた、さりげない声掛けに取り組んでいる。利用者の中に便がゆるくなり医師の処方薬を使用した。腹痛になり下痢の症状になった為にパットを使い対応した事があり、身体の状況変化に応じた取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無を確認し水分(乳製品)を摂って頂く、繊維の物を提供するなど予防に努めている。受診医師と相談し下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	必ず声かけし希望をお伺いしている。拒否はあった場合は時間をおいて声掛けするなど工夫している。体調不良等状況に応じて清拭で対応している。同性介助を希望されるお客様にも対応している。	入浴は利用者の希望を聞いて、週2~3回を目安に声掛けをして楽しんでもらっている。女性同士の介助希望の利用者には職員で話し合い対応している。季節感のあるしょうぶ湯やゆず湯なども楽しめるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の状態に応じて休んで頂いたり、就寝時間はお客様に合わせて就寝して頂いている。眠れない方には会話したり、お茶を飲んで頂くなど安心して休めるまで一緒に過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については一人ひとり記録があり内服薬が変更になった場合は申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備 洗濯物たみ等生活の中で出来ることをお手伝い頂き役割を持って頂けるように支援している。今まで経験された仕事からもの作りなどして頂くなど生活意欲を引き出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩やひなたぼっこを行っている。また、買い物、外食等で外にでかける機会を作っている。ご本人が希望されることは勤務を見ながら計画たて実施している。	月に1回は外食をするようにしているが店に忘れ物をした事があったので、外食などで出かける時は、利用者の持ち物を記入した表で忘れ物がないようにするなどの対応に取り組んでいる。「父の日」や「母の日」などに利用者の希望の店に外食をする事などに努めている。	



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	現金を持っているお客様は少ないが預り金から必要な分をお渡しし買い物をして頂く、または起案で買い物をする場合一緒に買い物に行きお金を支払って頂く等の支援をしている。			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	前もってご家族様に承諾を得て自宅に電話をかけて頂く場合もある。ご家族様や知人と年賀状や手紙のやりとりを行っている。			
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	色紙で作成した作品等は飾らずなるべく自宅に近い環境にしている。自然な光が入り、あたたかな空間作りを実施している。	観葉植物を配して、目にやさしい空間で利用者は思い思いのイスやソファで寛いだ時間を過ごせるよう工夫している。利用者の作品が飾られて、穏やかに暖かな空間作りを心掛けて、居心地良く感じられるように配慮されている。		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	席の配置を工夫し気の合う方との会話ができるように配慮している。ソファ等いくつか置くことで好きな場所で過ごして頂いている。			
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。</p>	ご本人が使いなれた物を持ってきて頂いている。居室設えの見学を行い勉強している。	家族とも相談をして、利用者の家族の写真や好みの置物などで、居室がその人らしい感じになるように配慮されている。安心して落ち着ける居室になるようにチェストや家具、小物などの配置を考慮して利用者の好みになるように取り組んでいる。		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	家具やテーブルに位置を工夫し安全に過ごして頂けるように配慮している。			